

伊里前川水系
伊里前川総合開発事業

は ら い か わ
弘川ダム



宮城県気仙沼土木事務所

弘川ダム管理事務所

住所：〒988-0477

宮城県本吉郡南三陸町歌津字弘川150-118

電話：0226-25-9195

宮城県気仙沼土木事務所（通常勤務している事務所）

住所：〒988-0181

宮城県気仙沼市赤岩杉ノ下47-6

電話：0226-24-2505

概要

伊里前川は、宮城県本吉郡南三陸町歌津の西南部に位置し、その源を神行堂山(標高459m)に発し、山間部を東流し、途中左支線樋の口川を合流しながら流下し伊里前湾に注ぐ流域面積17.6km²、流路延長7.8kmの2級河川である。

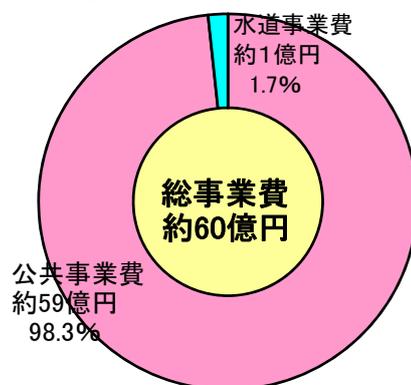
伊里前川では、昭和52年9月の台風11号により、浸水家屋6戸、浸水農地3.19haの被害が発生し、さらに昭和56年9月の豪雨では、浸水家屋48戸、浸水農地30.7haの被害が発生した。これらの災害を契機に、抜本的な治水対策として払川ダム建設に向けた調査を昭和62年度より開始し、平成4年度から建設工事に着手、平成12年3月1日に地権者会との間に損失補償基準の妥協調印がなされ、平成21年3月よりダム本体工事に着手し、本体コンクリート打設中に東日本大震災の影響により一時工事が中止したが平成24年10月主要工事を終え、平成25年度完成に至ったものである。

払川ダム受益地域図



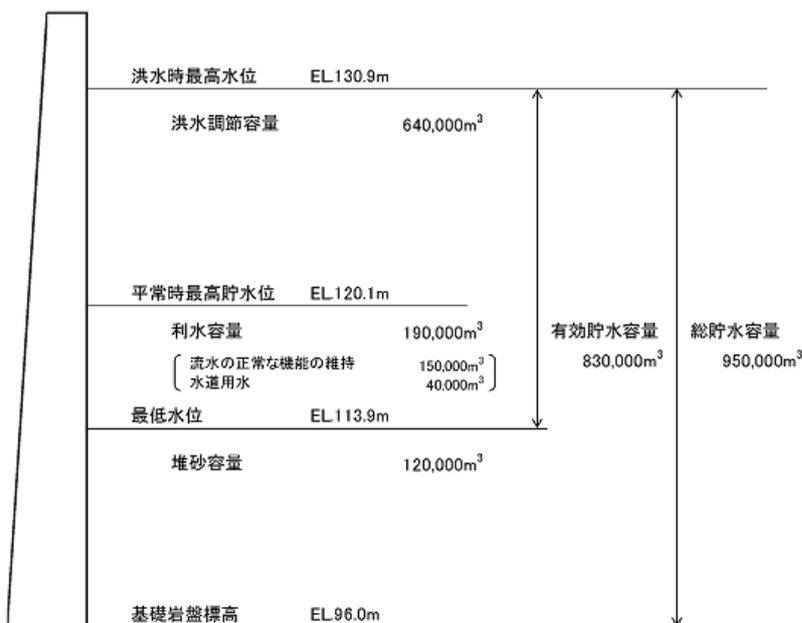
事業経過及び事業費

昭和62年4月	予備調査開始
平成4年4月	ダム事業開始
平成12年3月	補償基準妥結
平成13年3月	県道付替工事着手
平成14年度	用地買収開始
平成20年5月	付替県道供用開始
平成21年3月	ダム本体工事着手
平成22年5月	コンクリート打設開始
平成23年3月	東日本大震災発生
平成23年7月	コンクリート打設再開
平成24年5月	コンクリート最終打設
平成24年10月	ダム本体工事完了
平成25年4月	試験湛水終了
平成25年5月	ダム事業竣工

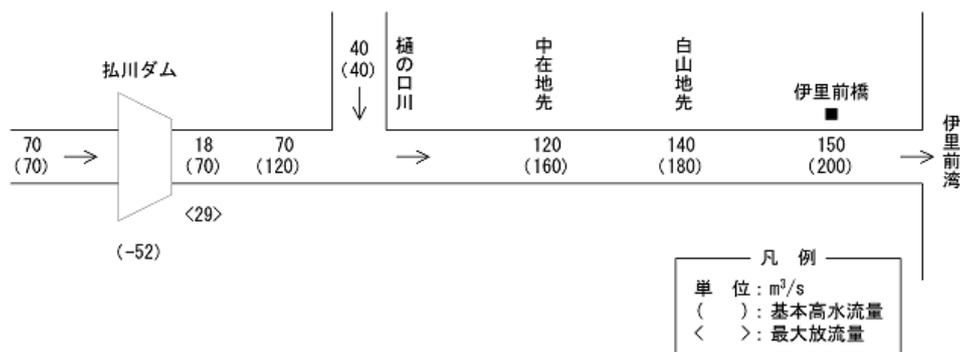


ダム本体工事費	約27億円
補償工事(県道付替)	約14億円
測量・試験費	約16億円
用地買収・補償費	約3億円

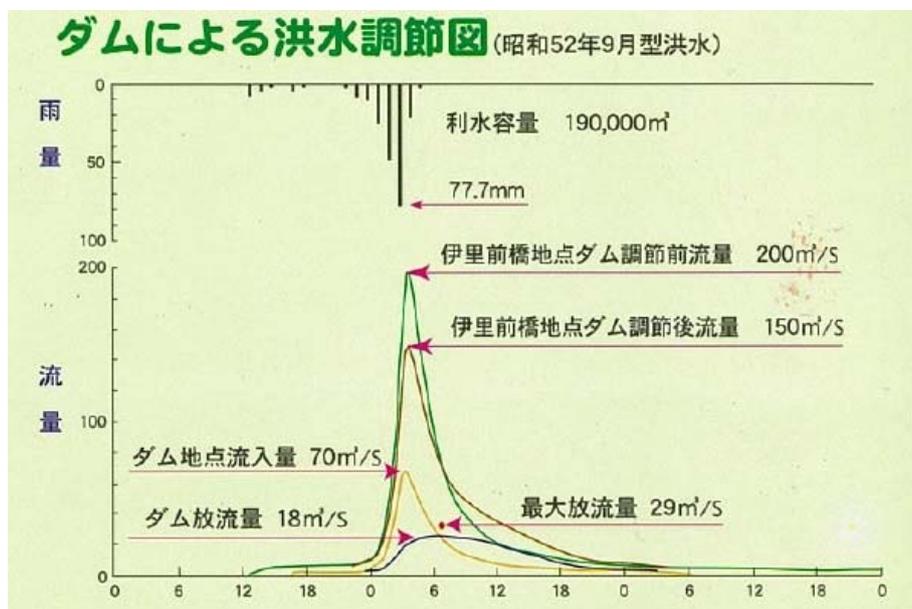
貯水池容量配分図



計画高水流量配分図



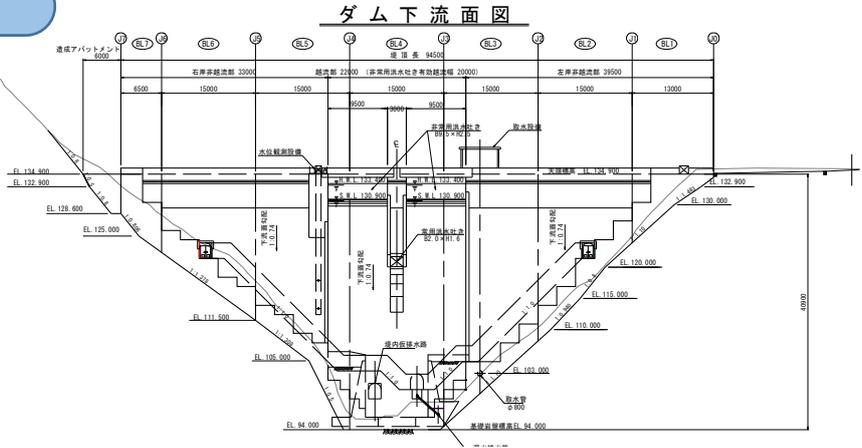
洪水調節図



弘川ダム貯水池諸元

河川名	(伊里前川水系) 伊里前川	ダム名	弘川ダム	位置	南三陸町歌津 字弘川
流域面積	17.6km ²	目的	洪水調節、流水の正常な機能維持、上水道用水		
貯水池		ダム		利水	
集水面積	6.0km ²	型式	重力式コンクリートダム	上水道	最大1,000m ³ /日
湛水面積	0.08km ²	堤高	38.90m		
湛水延長		堤頂長	94.50m		
計画満水位 (サーチャージ水位)	EL 130.90m	越流頂高	EL 130.90m	水没補償	
常時満水位	EL 120.10m	自由越流長	234.60m	家屋	
制限水位		堤頂高	EL 134.90m	宅地	900m ²
最低水位	EL 113.90m	堤頂巾	6.50m	田地	7,500m ²
洪水調節水深		堤体積	32,000m ³	畑地	300m ²
				山林、原野	2,100m ²
総貯水容量	950,000m ³	堤体法勾配	上流 鉛直 下流 1:0.74	その他	1,000m ²
有効貯水容量	830,000m ³	放流設備	クレスト自由越流 高2.5m×幅9.5m×2門 オリフィスによる自然調節 高2.03m×幅1.6m×1門 低水放流バルブ ジェットロードゲート φ200mm	小計	11,800m ²
堆砂容量	120,000m ³			道路	付替県道2,198m 付替林道 13m 付替橋梁 3橋
洪水調節容量	640,000m ³				
利水容量	190,000m ³	取水設備	選択取水 連結多孔式ゲート(3段)		
		地質	中世代三畳紀 稲井層群伊里前層		

堤体下流面図



標準断面図

